

令和5年度 第2回みんなで支える森林づくり諏訪地域会議 議事録

開催日時：令和6年3月26日（火） 13時30分から15時30分まで

開催場所：諏訪合同庁舎 講堂

出席者：【構成員】（五十音順、敬称略）

片倉 正行、中村 くすみ、藤森 良隆（座長）、松下 妙子、宮坂 佐知子

【事務局】

（諏訪地域振興局）

宮原 渉 地域振興局長、鎌田 宣之 林務課長、百瀬 直孝 治山林道係長

山城 政利 林務係長、久保田 淳 普及林産係長

伊藤 武 担当係長、西川 優弥 技師

要 旨：

会議事項（1）令和5年度森林づくり県民税活用事業の実施状況について

（事務局）

資料1により説明（説明者：久保田、山城）

（片倉構成員）

令和5年度の諏訪管内の実績見込みは29,747千円であるが、県全体ではどうか。

（事務局）

予算額で624,870千円である。実績については、次回会議で報告させていただく。

（片倉構成員）

県政アンケート調査の設問で、「日頃の生活の中で、森林税を活用した成果を感じる取組はありますか。」とあるが、地元で森林に携わるメンバーに聞いても細かい用途を知らない人が多い。設問として回答しにくいと感じるので、今後のアンケートの際には、もう少し工夫されたい。

（藤森座長）

令和5年度の実施状況（29,747千円）は、令和4年度に比べてどうであったか。

（事務局）

第4期になり再生林の加速化を主軸として、新たな事業構成となっているため単純比較はできないが、事業費ベースでは令和4年度48,415千円に比べ、減少している。

会議事項（2）令和6年度森林づくり県民税活用事業事業計画（予定）について

（事務局）

資料2により説明（説明者：山城）

（中村構成員）

ニホンジカによる食害が大変な状況であるが、生息数は減っているのか。

（事務局）

令和元年度の生息状況調査では、約 22 万頭と平成 27 年度とほぼ同等であり、年間 4 万頭の目標で捕獲を進めているが、実績としては 3 万頭前後となっている。なお、年間 4 万頭の捕獲をしても、減ることはなく、現状維持できるという状況である。

原村有林でカラマツ植栽地においてセンサーカメラによる食害状況を調査したが、周辺の草本類は食べるがカラマツへの食害はなかった。

(片倉構成員)

下諏訪町においては、カラマツの樹皮の食害による大規模な立ち枯れが発生している。

(事務局)

標高 1,800m 以上のカラマツに被害が多く、ほぼ全滅の状況である。

下諏訪県有林でも植栽を行ったが、侵入防止ネットを施工しても中に入られてしまう状況である。

(片倉構成員)

一時期であるがハケ岳の亜高山帯に侵入していた。

(事務局)

下諏訪県有林では、車に並走するような状況である。

(藤森座長)

松くい虫被害について、諏訪地域内での被害格差はあるか。

(事務局)

塩尻市境の岡谷市における被害が多いが、市では枯損木を発見次第、直ぐに伐倒処理をしている。諏訪市、茅野市、下諏訪町においては、数年に数本枯れる程度である。

(片倉構成員)

松くい虫が岡谷市に入った際に、中信地方並みの拡大を懸念したが、寒冷地であることで拡大が抑制されているのではないかと。ただし、近年の暑さがこのまま続きさらに気温が上昇していくようであればかなり深刻な状況になることも想定される。

(藤森座長)

松くい虫被害については危惧しているところであるが、温暖化の影響で標高 850m から 900m がボーダーラインとなっているが、いずれ 1,000m を超えてくるのではないかと。

今後の課題として検討をお願いしたい。

(片倉構成員)

被害発生初期段階では、標高 700m 以上には拡大しないと見込んでいたが、現在の安全ラインは 1,100m である。

地元の御柱には、アカマツを使用するので、伝統が絶えてしまうことを危惧している。

(松下構成員)

森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業者への支援について、多様な林業の担い手確保育成事業の事業主体となっている県林業労働力確保支援センターとは。

(事務局)

長野県林業労働財団において、新規就業者への支援や安全具等購入経費への助成などを実施して

いる。

(松下構成員)

信州ネイチャーセンター構築事業とは。

(事務局)

自然観察インストラクターや自然公園施設を活用した取組をしている者を対象とした講習会や研修会を県でカリキュラムを組んで開催している。

地球温暖化防止吸収源対策推進事業は、森林の里親企業等が実施した森林整備について、森林CO2吸収量の評価審査を行い認証している。

森林サービス産業総合対策事業は、森林セラピー基地等のガイド等の人材育成及び資質向上のための講座の開催等を実施する。

(松下構成員)

令和4年度に森林税を活用して森の中に保育園を整備した。

この森に来て3年が経過したが、森の様子が毎年変わってきており、最初はシェルターを建てて必要最小限の伐採を行ったが、今年になって花が咲いて木が咲かなくなったり、その逆もあったり、急に葉っぱが繁った木もあったり、自然状態で共存してる森に手を入れると様子が変わってくるのが分かってきて、自身も子ども達も学ばせてもらっている。また、今年は雪が多かったため、樹高の高いカラマツからの落雪が怖くて、2、3月はなるべく森に入らないで保育したり、長野県産カラマツで作った子ども達の居場所、森から様々なことを学ばせていただいている。

森林環境教育を総合的、横断的に学習できる施策が森林税で出来ないものかと考えており、目的税としての森林税の使い道や森林体験を通じて得るものが多いと思う。

幼児期の森林体験は、本質的なものとして自然と身につく、小学生になり倫理性も兼ねた横断的な学習がベースとなり、成人になり森林整備に関わる担い手になるのではないかと。

先程のアンケートも、知っている、知らないで括るのではなく、実際に森林税を活用し森林内で活動している人たちへのアンケートも必要ではないかと。

保育園の保護者も森林税の用途を知らなかったが、森林税の用途を知り、それを利用することで、認知が広がった事例もある。

(事務局)

事業実施者（森林税活用者）としての実感のこもったお話をいただいた。

令和4年度に小学校の総合学習で、担任の先生が熱心であり、お手伝いをさせていただき、学校の裏山の地図を作ったり、その生息する動物を調べるなどの森林教育を行った。

林業普及指導員であれば、手作りで学習の場の提供はできる。

提案は県に上げていくが、身近にそのような要望があれば、事業を構築せずとも学習の場を設けることはできる。

(松下構成員)

自然体験活動として、キャンプ形式で募集して集まるメンバーで学習する機会があればいいかなと思う。

(事務局)

みどりの少年団活動で、管内の学校から 50 から 100 名が集まり森林体験学習を行っている。また、全県の緑の少年団活動もあるが、年間規模ではないので、少年団活動の中で提案してまいりたい。

(松下構成員)

林業関係者のみでなく、自然環境教育関係者や様々な方が関わる必要がある。特に予算をつけなくても、学校や保育園の先生も森林を学ぶ場がないので、そういった場を提供することで、森林への関心が高まるのではないか。

(事務局)

第 4 期森林税の新たな取組として、森林サービス産業など森林の多面的利用の支援として、人材育成やカリキュラム作成などへの支援を行っていくので、ご提案の内容を提言していきたい。

(松下構成員)

森林環境教育と野外体験活動がセットであれば参加もしやすいのではと考える。

(片倉構成員)

森林学習展示館で勤務していた時に、新任の高校の先生たち 50 人位の研修会を実施したことがあるが、マッチを擦れない人や薪のくべ方もわからない人がいた。ちゃんと教育しておかないと、災害時に火も焚けないようでは困る。子ども達に教える先生方へも、しっかりとした森林環境教育を行わなければならないと実感した。

(藤森座長)

林業界の低迷を打開するためには、子ども達にいかに関心を持たせるかが第一歩なのかと考えている。

(宮坂構成員)

アンケートは大事であるが、回答者の年齢層を見ると若年層が少ない。これから先の未来を考えた時に、若年層に関心を持っていただくことが必要であり、次回アンケートの際には、自由回答でなく、若年層の意見が聞けるよう工夫されたい。

地球温暖化の影響なのか森林の生長が早くなった感じがしており、倒木により荒れた山が増えてきた気がする。諏訪地域の地質は崩れやすいので、カラマツなど浅根性の樹種の整備方法を考えていく必要があるのではないかな。

今後も森林税事業が継続していく中で、事業体系も変わりステップアップしていると感じる。

(藤森座長)

貴重なご意見、また、ご感想をいただきましてありがとうございました。

令和 6 年度も同じ構成員で検討をさせていただくことになるようでございますので、引き続きよろしく申し上げます。